

# 平成 26 年度 予算施策評価表

様式1

|       |                     |         |          |
|-------|---------------------|---------|----------|
| 施策名   | 高齢者にやさしい福祉社会づくり     | 予算施策コード | hf15     |
| 担当部署名 | 保健福祉部 生きがい推進局 長寿介護課 | 評価責任者   | 課長 山岡 敏章 |
|       |                     | 連絡先     | 3705     |

## 1 施策の内容

|          |   |
|----------|---|
| 施策の目標    | 健康づくりや生きがい対策を推進するとともに、地域や家庭での生活を支援する介護サービス基盤の充実や地域で支え合う福祉サービスの促進を図り、高齢者が生き生きと自立した生活が送れるようにする。   |
| これまでの取組み | <p>高齢者の生きがいづくりと社会参加の促進として、老人クラブの自主的な活動を支援することで、健康づくりや閉じこもり予防を図るとともに、全国健康福祉祭(ねんりんピック)への参加者派遣による生きがいづくりや、高齢者大学校での様々な分野の知識や技術の習得による地域リーダーの養成に努めている。また、在宅介護研修センターにおいて個別ケアを重視した実践的な研修を実施し、介護家族の支援と介護関係職員の資質向上を図っている。</p> <p>安心して暮らせる環境の整備としては、居宅において生活することが困難な高齢者が低額な料金で利用できるよう、軽費老人ホームに対して事務費減免額分の補助を実施している。</p> <p>高齢者の権利擁護の取組みとしては、高齢者虐待に対応する職員に対する研修を実施している。</p> |

## 成果指標名(目標の達成度合いを示す指標)

|          |  |          |  |
|----------|--|----------|--|
| A        | 在宅介護研修センターが行う研修への参加者数                        | B        | 百歳長寿者訪問数   |
| 選択理由     | 介護家族や介護関係職員等の研修参加人数により、在宅介護支援の強化度合いが推測できるため。 | 選択理由     | 高齢者の健康づくり・生きがいづくりの取組みを進めていくことにより、百歳長寿者が増加することが予想されるため。 |
| 算定方法     | 研修参加者  | 算定方法     | 百歳長寿者訪問数   |
| 成果と指標の関係 | 中  | 指標の種類    | フロー  |
|          |  | 成果と指標の関係 | 中  |
|          |  | 指標の種類    | フロー  |

## 指標・事業費の推移

| 区分       | 成果指標A |       |        | 成果指標B |     |       | 事業費     |        |        |         |
|----------|-------|-------|--------|-------|-----|-------|---------|--------|--------|---------|
|          | 計画    | 実績    | 達成率    | 計画    | 実績  | 達成率   | 予算      | 国費     | その他    | 県費      |
| 単位       | 人     |       |        | 回     |     |       | 千円      |        |        |         |
| 24年度     | 7,090 | 9,838 | 141.0% | 461   | 442 | 95.9% | 796,523 | 12,317 | 90,360 | 693,846 |
| 25年度     | 7,090 | 9,280 | 130.9% | 472   | 452 | 95.8% | 735,346 | 13,845 | 26,995 | 694,506 |
| 26年度     | 9,100 |       | 実績無    | 476   |     | 実績無   | 740,528 | 13,722 | 10,100 | 716,706 |
| 27年度 目標値 | 9,100 |       |        |       |     |       |         |        |        |         |
| 最終目標     | 9,100 |       |        |       |     |       |         |        |        |         |

## 2 施策の評価

|                  |          |    |   |  |  |  |        |      |        |
|------------------|----------|----|---|--|--|--|--------|------|--------|
| 県の関与の必要性         | 高い       | 説明 | 超高齢社会を迎えた中において、高齢者が能力に応じ自立し、健康的で活動的な生活を送ることができるよう、高齢者の知識や経験を生かせる環境づくりを進めるとともに、介護等が必要となっても、住み慣れた地域で暮らし続けることができるように、地域全体で、高齢者を支える社会づくりを推進していくことが、重要な課題となっている。<br>また、県には、老人福祉法や介護保険法に基づき、「高齢者保健福祉計画・介護保険事業支援計画」を策定することが義務付けられており、この計画の実現に向けて、市町と十分連携して課題解決に取り組んでいく必要があることから、県も主体的に関与していく必要がある。 |  |  |  |        |      |        |
| 成果指標A            | 横這い      | 説明 | 在宅介護研修センターでは、介護技術、介護予防や認知症、ターミナルケア(看取り)等に関わる各種の研修を行っており、当センターの研修参加者の増加は介護家族や介護関係職員による在宅介護の支援強化につながり、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる社会の創出に寄与することが期待できる。   |  |  |  |        |      |        |
| 成果向上余地           | ほとんどなし   |    |   |  |  |  |        |      |        |
| 成果指標B            | 横這い      | 説明 | 老人クラブや高齢者大学校など高齢者の健康づくり・生きがいづくりにつながる施策を推進することにより、元気な高齢者の増加をもたらし、ひいては百歳長寿者訪問数も増加することが期待できる。  |  |  |  |        |      |        |
| 成果向上余地           | ある程度向上可能 |    |   |  |  |  |        |      |        |
| 参考：構成事務事業の評価の平均値 | 成果動向     | -  | この欄は、成果動向評価後に表示されます。  |  |  |  | 成果向上余地 | 0.00 | ほとんどない |

今後予測される環境変化

